

## 上田先生を偲ぶ

吉田 雅之

私が上田稔先生の噂を先輩より伺ったのは学部2年の春。当時先生は選択科目「時事英語研究(放送英語)」「アメリカ語研究」で現代英語の分析をなさると共に、4年生必修の英語史関連の講義と「4年生ゼミ」をお持ちでした。ゼミでは Old English の講義をなさりつつ、紀要論文ではその母体となった Old Saxon (ブリテン島にやって来る前にサクソン人が大陸で話していた言葉)を細かく分析する polyglot ぶりを発揮されていました。くじ運の悪い私はなかなか選択科目を自由に履修できず、結局上田先生の授業は全て4年生の時にまとめて履修することとなりました。当時私は家の事情で進学を一度はあきらめたのですが、上田先生の教えを受けたことがきっかけで大学院へ行く決心をしました。

「時事英語研究(放送英語)」では FEN (現在は AFN) news をその場で録音し、LL 教室で一斉に書き取ります。たまたま先生の書き取っている様子がヘッドホンから聞こえてきた時、一度に聴く量が我々とはケタ違いに長いことを知って驚いたものです。「アメリカ英語」では歴代大統領のスピーチを比較考察しました。学部ゼミでは OE を中心に学んだのですが、大学院に入ると話は周辺言語数ヶ国語に及び、辞書と文法書を揃えた頃には次の言語に移るような進み方をされていたので、小島謙一先生からゴート語の手ほどきを受けつつ、食らいつきました。「しょせん OE は死んだ言語だからね」とおっしゃりつつも、先生の OE の発音は当時のネイティブと遜色がないのではないかと思えるほど流暢でした。在外研究先にサクソン人の故郷であるドイツを選ばれた程のドイツ語の実力が、その土台になったのでしょう。

Old Saxon の連載論文が出版という形で実を結ばなかった点、何とも残念です。御冥福をお祈りするばかりです。

(早稲田大学教育学部専任講師)